

# 青年たちは今……

## 座談会 青年

### この年をきつかけに 幅広い活動を

今年「国際青年年」一九七九年の国連総会で、社会の発展へ向けて青年の積極的な参加を促すことを目的として定められたもので、「参加、開発、平和」をテーマとしています。

そこで八月一日、市広報委員会では、青年が自分自身の生き方や団体活動での取り組みの中で、国際青年年をどう受け止め、今後の地域活動にどう生かしていくか、農家の後継者で組織している「南園4Hクラブ」と「市連合青年団」の皆さんに話し合っていたきました。

#### この年をきつかけに

#### 幅広い活動を

今年「国際青年年」ですが、皆さんの活動に直接結びついているでしょうか。また一人の青年として身近に感じていますか。

岡 4Hクラブとしては、あらためてどんな活動をしていくかは、まだ考えていません。でも、この年をきっかけに、若者が国際的な視野を持つことは、とても大切だと思います。

藤宗 国際青年年だから何かをしなくてはならないと、よく聞き



くかは決めていませんが、この年にちなんで青年団として、何か一つの事業をやってみたいと思っています。



藤宗 恭子さん

村田 直接私たちに迫った問題とは感じませんね。

島崎 具体的に、何をどのようにやっていくのかわかりませんが、私のように青年団から離れた今、いろいろな事業に参加するにしても、なかなか難しいような気がします。

徳久 国際青年年だから何かをするという考えは、間違っていると思います。それまでの年に、またこの年に続くような日常的な事業を持つていくことが大切です。何か、はしやき過ぎという感じも



岡 雅司さん

ですが、何かピンと来ないのが正直な気持ちです。

吉井 二年くらい前から知っていました。具体的に何をやってい

しますが……。

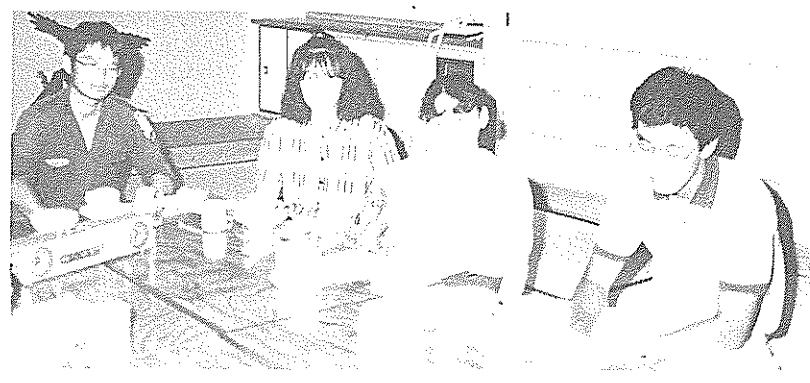
西森 もちろん、そのときだけでの運動ではないと思います。しかし、これを一つのきっかけとすることは大切ではないでしょうか。今から十年前、婦人の地位を高めようと「国際婦人年」が起り、この年を一つの起爆剤として幅広い活動が進められてきました。この婦人年をきっかけに婦人が目覚めてきたことは確かです。私たちの運動は、少しでも前進したと思っています。

だから皆さんも、この青年年を契機に、青年としての活動を大きく伸ばして欲しいと思います。私たちも大きな期待を寄せています。

皆さんが組織活動をするのに、まず一番基本となるのは、生活の基盤がしっかりしていることだと思います。ところで今、働きがいとか生きがい、毎日の生活についてどんな感想をお持ちでしょうか。

石川 最初から、人に使われるような勤め人にはなりたくなかった。農業は自分なりの計画でやっていけるし、やりがいのある仕事だと思っています。

島崎 会社で事務の仕事をしている私にとっては、仕事に生きがいを感じるというよりは、与えられた仕事を間違えなくやるという



意識です。安らぎや生きがいを求めるのは、やはり別にサークルに入つてやるしかないですね。生きがいについてまじめに考えたことはあまりないし、ときたま寂しいなあとも思います。

岡 4Hクラブの活動、地域活



石川 耕司さん

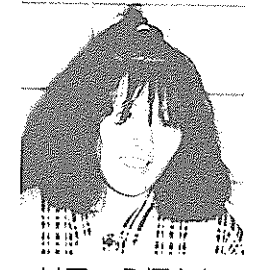
動、趣味にと、家でプラプラする時間がないように、毎日を送っています。本当に生活は充実していると思います。

石川 仕事、趣味のほかに、毎

#### 青年団の中で 自分が大きくなった

日の生活の中にもう少しハッピーングが起きたらおもしろいのかなあと思います。最も興味があるものといえば、やはり女性ですね。

若い人は若い人なりの生きがいが必要ありません。その中には、皆さんが行っている組織活動も含まれると思います。そこで、組織の現状と活動について説明を



村田 八柄さん

岡 四月ごろに農業後継者を歓迎する新就農者励進会、共同プロジェクトで畑を借りて栽培し、そ

また県、市ブロックでの研修会なども多くあります。

西森 会員はどれくらいですか。岡 約五十人くらいで、横ばい状態です。若い人は、知らないところへ入るには、やはりグループでないと入りにくい面もあると思います。

吉井 私が青年団に入った六年前は、市内全体で団員は約二百六十人はいました。現在は百三十人あまり、うち女性が三十人と半減です。しかし、籍を置くだけの団員が減ったとも言えます。一部の地区では、十代の若い団員が増えているところもあり、これから先、活発な活動もできるのではとも思っています。

では、実際組織に入つて活動して来た皆さんは今、どう感じていますか。

吉井 やつていてしんどいと思

私はまだ入つたばかりでよくわからないけど、いろいろな人と知り会えたし、会に行くのが楽しみです。

石川 すばらしい団体だと思います。岡 活動をやればやるほど、どんどん見返りもあるし、すばらしいことです。

#### 出席者

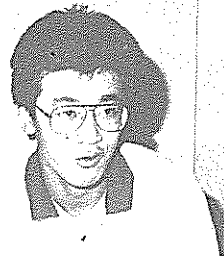
- 吉井和幸さん (市連合青年団団長・大浦)
- 村田八柄さん (副団長・十市)
- 徳久靖洋さん (顧問・岩村)
- 島崎千恵さん (顧問・岡豊町)
- 岡 雅司さん (市4Hクラブ会長・外山)
- 石川耕司さん (市4Hクラブ員・田村)
- 藤宗恭子さん (市広報副委員長)
- 西森 律さん (市広報副委員長)
- 司会・高木正平さん (市広報委員)

# 自分も生かされる

## ボランティア

「すばらしい組織であればこそ  
なおのこと、社会に目を向けた活  
動も活発になってくると思います  
そこで、皆さんは組織として、社  
会参加をどう考え、どのように取  
り組んでいますか。」

吉井 今、青年団が取り組んで  
いる豊年祭、盆踊りなどある意味  
では社会参加と言えらると思います  
ボランティアとしての役割、交  
通安全の呼び掛けなどもあります。



徳久 靖洋さん

島崎 青年の生き方をテーマに  
した「おながどり」、障害者問題  
を取り上げた「詩」という二つの  
創作劇を連合青年団が取り組ま  
しましたが、あれも一つの社会参加だ  
なあと感じます。

西森 さきほ「活動がしんど  
い」と青年団長が言われましたが、  
その声を私たちがよく聞きます。

吉井 多くの友達と知り合えま  
す。友達をつくるのは最高の場  
です。健全なる青年の集まりに皆

やはり、ボランティア活動などに  
しても、人のためにやっていると  
思ったらどうしてもしんどくな  
ります。まず自分たちがボランテ  
ィア精神を学習して、事業に取り  
組まなければなりません。婦人会  
でも、交通安全の指導や健康づく  
り活動などいろいろな活動を行っ  
ていますが、それによってまた自  
分たちも生かされると自覚するこ  
とが何より大切で、それが正にボ  
ランティア精神だと思います。し  
かし、この精神に徹するのはな  
かなか難しいようすが。

青年の皆さんの多くが、この精  
神を持っていただいたら世の中も  
もっとよくなると思います。

島崎 劇の話になりますが、交  
通事故で目が見えなくなっていま  
った若い女性団員を主人公にした  
「詩」という創作劇をやるにあた  
って、みんなと話し合いました。  
やはり軽い気持ちで取り上げては  
いけないと思います。

ボランティアに参加するとき  
は「してやった」という気持ちでは  
なく、現実をきちんと見つけて取  
り組むべきだと思います。行動は

皆さんの活動を更に伸ばすた  
めには、青年層以外の人たちとの  
つながりも大切になってくると思  
います。

吉井 各地の団の事業の中  
で、子供会や婦人会などと協力し  
てやっていると、自分たちが  
が、自分がいる大塚地区のよう  
に団体が多すぎて、そういう場が持  
てないということもあります。  
これからは、4Hクラブなどと  
青年どうしの話し合いの場をつ

## 社会に目を向けた

### 活動にまで発展を

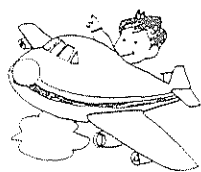


障害者問題をテーマに創作劇の取り組み

同じであっても、気持ちの持ち方  
が大きく違ってきます。

岡 4Hクラブは、もともと研  
究グループとして発足したもので  
す。今はもっと地域に認められ

ような活動をしないでと、積極  
的な活動を進めており、生産物を  
施設に贈るなどしています。



島崎 千恵さん

「この暑いのに」と感  
じている。やはり、そういう人な  
どもにいつしよに体験してもら  
い、その充実感を感じてもらっ  
とが大切だと思います。

島崎 内部のつながりも大事で  
すが、更にそれから脱皮し、社会  
に目を向けていくような活動にま  
で発展させて欲しいです。そして、  
その充実感をみんなに体験して  
もらいたいと思います。

標に、地域の特性をだした技術交  
換会や共同プロジェクトによる裁  
培、催し物など、たくさんの活動  
をしています。

徳久 今の青年団の役員にひと  
言。ボランティア活動でも、見て  
さん参加を。

異国で言葉も通じぬまま六月  
があつという間に過ぎてしまった。  
電気も無いロソク生活、乏しい  
食糧、めつたに手に入れることの  
ないナスやニンジン。玉ねぎを見  
ては涙を流して唄んだり、野菜の  
一つにも幸福感を見いだしたこと  
もあつた。しかし、こんな条件の  
下でもそれを苦に思つたことはな  
い。一大決心の自分を揺るがした  
のは、異文化、国民性から生じる  
ギャップ。単純な病気で死にゆく  
人々を何人も見送りながら、いつ  
たこの力で何ができるのだろう  
か。何のためにこの国に身を投じ  
たのだろうか。無力な自分と矛盾  
の葛藤であつた。

ボランティアとは、人を生か  
すことから自分を生かしていく  
と書かれていますが、正にその通り  
だと思います。国際青年年もあと  
数カ月となりましたが、今年をき  
っかけに組織活動をいっそう充実  
させて欲しい。そのリーダーシッ  
プを大いに発揮してください。期  
待しています。今日はありがとうございました。

不可欠なものではあるが、ヒトの  
心を動かせるのはヒト以外の何も  
でもない。



# 根づくアフリカ

56年4月から2年間、日本青年  
海外協力隊員としてアフリカのマ  
ラウイで、助産婦としてボランテ  
ィア活動に打ち込む。



竹内文子さん  
(岡豊町出身)

福福な日本ではほとんどの不自由さ  
もなく、のほほんと生きているこ  
とに虚無感を抱いていたころ、父  
の突然の死が私の心に引火した。  
求められている所で精いっぱい生  
きてみようと紆余曲折の参加であ

任期も終えようとしたある日の  
こと、入院していた婦人の一人が  
「貴女方は肌が白く心がきれいだ。  
自分たちは肌が黒いから心が汚れ

「ボランティアとは、人を生か  
すことから自分を生かしていく  
と書かれていますが、正にその通り  
だと思います。国際青年年もあと  
数カ月となりましたが、今年をき  
っかけに組織活動をいっそう充実  
させて欲しい。そのリーダーシッ  
プを大いに発揮してください。期  
待しています。今日はありがとうございました。

アフリカの二年間は、その確信  
と、どんな所でも生きてゆける勇  
気と、ヒトを思いやるほんとうの  
優しさを私の中に今なお根づかせ  
ている。



任地ナムエラのシスマー  
マザ病院で(中央が竹内さん)